

2017年(平成29年)2月19日(日曜日) (1)

【大樹】4月から小型無人飛行機「ドローン」を使つたシカなど有害鳥獣の駆除システムの実証試験に取り組むキャリオ技研(本社名古屋市、富田茂社長)は19日、町生花でドローンの試験飛行を行つた。今後の実証試験で協力を受ける道畜友会大樹支部(奥田真行)

支部長)のメンバーに機能を披露した。

同社は次世代自動車、無人飛行ロボット、画像認識技術、画像認識によるオートパイロット技術などの開発を行つてゐる。ドローンによる有害鳥獣駆除に関する研究開発に取り組む。事業所は町晩成に置く予定。

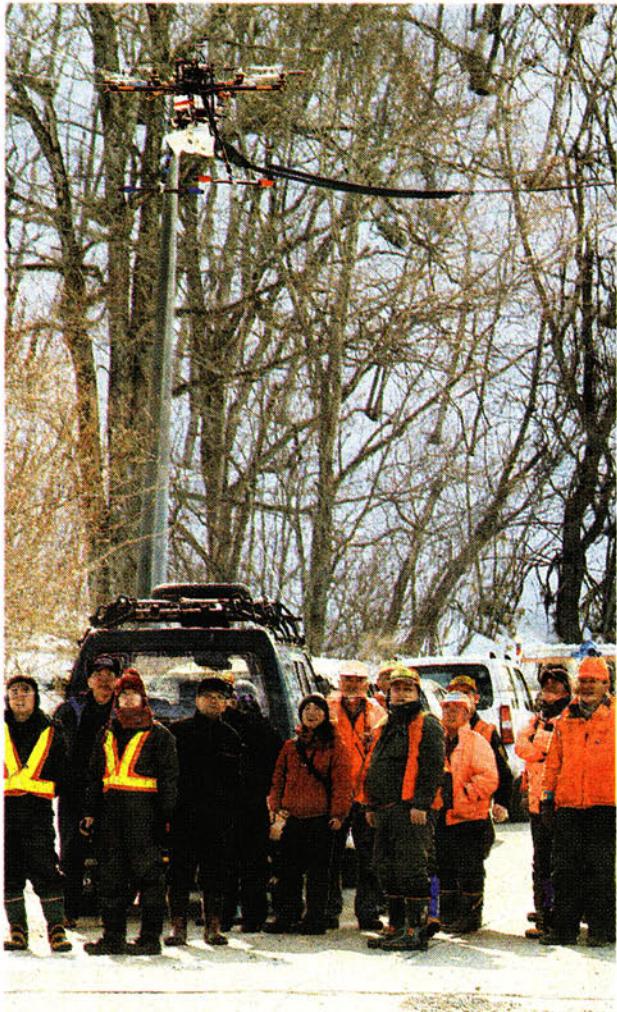
この日は、同支部のシカの認定も受けており、3年の一斉駆除に合わせて試験飛

ドローンお供にシカ駆除

大樹で実証へ 猿友会に性能披露

ほど前から愛知県で研究開発を行つてきた。

4月からは、森林、平原などの試験効果を確認やすい環境がある大樹町内で、3~5年をめどに研究開発に取り組む。事業所は



関係者が見守る中、上昇するドローン(19日午前8時45分ごろ、折原徹也撮影)重さ6・5キロのドローンを見守る中、上空15~20㍍まで上げて、搭載したスピーカーから音声を流し、シカが追い立てる作業に活用できることなどを示した。

同社産業部門技術部技術管理グループの野々部和夫グループ長は「大樹は土地が開けており試験しやすい。早く実用化させて使ってもらい、恩返しだけたら」と話していた。(伊藤亮太)